

KELES Newsletter



2008年度 第1号

事務局: 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

関西大学 外国語教育研究機構 吉田信介研究室内

Tel:06(6368)0477 e-mail: keles@infoseek.jp URL:http://keles.hp.infoseek.co.jp/ 2008年4月26日発行

巻頭言(会長挨拶)

国策としての外国語(英語)教育

—国民皆教育としての外国語(英語)教育時代の始まり—

瀬川 俊一

去る3月28日、文部科学省は「幼稚園教育要領」、「小学校学習指導要領」、「中学校学習指導要領」を公示しました。引き続いて4月24日には、小・中学校学習指導要領の改訂に伴う平成21年度からの移行措置案を公表しています。学習指導要領の改訂に伴う移行措置案の概要によりますと、その1. では、移行措置期間における基本方針として、○平成20年度中に周知徹底を図り、平成21年度から可能なものは先行して実施、○移行措置期間中に、教科書の編修・検定・採択を行い、小学校は平成23年度から、中学校は平成24年度から新しい学習指導要領を全面实施、とされています。

その4. では、他の教科等(学校の判断で先行実施)の(2)小学校における外国語活動、として、第5・第6学年における外国語活動は、各学校の裁量により授業時数を定めて実施することが可能。(各学年で週1コマまでは、総合学習の時間の授業を充てることが可能。)とされています。

目標としては、「外国語を通じて、言語や文化について積極的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながらコミュニケーションの素地を養う。」と記述されています。

中学校学習指導要領の目標としては、現行の表現の「聞くことや話すこと」に加えて、「読むことと書くこと」が追加されていることが変更点です。言語の基本4技能が全て表記されて、目標に相応しい内容・表現になったことを歓迎したいと思います。外国語(英語)科授業が週4時間となり1時間増となったことが大きな変更点と言えます。

文部科学省の今回の改訂には、国語科教育をも含めての言語教育への意気込みが良く表れていると言えます。(理科教育、道徳教育、等の変更点も是非とも原文で確認して頂きたいと思います。)小学校5年生から週1時間の外国語授業が始まること、各学校の裁量によっては総合的な学習の時間を外国語の授業に充てることも可能であるため、週2時間の授業を実施する小学校も在り得ることになります。

中学校でも週4時間の授業に加えて、総合的な学習の時間を外国語の授業に充てることも可能なため、週5時間の授業も可能となります。

現行の学習指導要領で、それまでは選択科目扱いであった外国語(英語)科が中学校で初めて必修科目となりました。高等学校の「英語1」あるいは「オーラルコミュニケーション1」が必修科目であるため、日本国民はすべて中学校1年から高等学校1年までの4年間、英語学習を必修教科として学習していることになります。それに加えて、今回の学習指導要領の改訂では、小学校5年生からの英語学習が始まることになりました。学校によっては小学校で週2時間の英語学習、中学校で週5時間(あるいは一学年度内で部分的に6時間も可能)の英語学習を実施することも可能になります。

教育界にも真の自由主義時代が到来したことを示す指導要領の出現です。多様化や個に応じた教育の必要性が語られるようになってから、かなりの時の流れを経て、漸く教育界にも法的拘束力を持つ学習指導要領に明示される教育体制で学校教育が行われる時代となりました。教育現場の私達は「習熟度別指導」等により、一人ひとりを大切にする「個に応じた指導」に取り組むことの大切さを再確認したいと思います。

(平成20年4月25日。京都府立大学名誉教授。)

注:3月末日刊行予定のニューズレターが、諸般の事情により、年度替わりの4月下旬刊行となったため、新学習指導要領についての記述に変更いたしました。

第11回卒論・修論研究発表セミナー 会場校を担当して

東 淳一(流通科学大学)

このたび、卒論修論研究発表セミナーを本学で開催させていただくこととなりましたが、将来英語教員、あるいは英語教育の研究者をめざす若い皆さんが集い、日ごろの研究成果を発表する機会があるということは大変大きな意義をもつと思います。最大の意義は、学会というものがどういうものであるのかを知るいい機会になるということでしょう。学会は教育・研究機関でプロの教育者、研究者として働いている先生方が、日ごろの教育、研究の成果を発表し、同時にその内容を共有するためにボランティアで活動している場です。今の時代、教員にとって自分の職場で自らのいろいろな仕事を処理するだけでも大変ですが、それでも意欲的な方はそれぞれが所属する組織を超えて、こうして学会活動を支えています。このような活動が地域の、そして日本の国全体の学問水準や教育水準を高めることに貢献しているのはもちろんですが、同時に参加する者からすれば、学会活動を通じてさまざまな考えをもつ仲間と出会うことは、大きな刺激となります。また、さまざまな人的ネットワークをつくるという意味でも学会は大きな意味をもちます。

研究者にとって学会のもつもっとも重要な意義は、当然のことですが、自らの研究発表の場を与えてくれるということです。「論文をいくら読んでも、専門書をいくら読破して勉強しても、自分自身が論文を書かない限りは、絶対にいい研究者にはなれないよ」ということばを、私は学部時代にゼミでお世話になった先生から常に言われていました。これは耳学問に対する戒めでもあります。研究者を目指すものにとっては本格的に射たことばであると思います。事実、30前半までに学会で発表したり論文を書く機会があまりなかった人は、残念ながらその後ほとんど論文が書けないでいます。どうも、論文書きについて臨界期(?)のようなものがあるかのような印象すら受けます。しかし、どこでそういった自分の研究成果を発表したらいいのでしょうか。言うまでもなく、一番手っ取り早いのが、自分が所属する学会で発表したり、学会が出版するジャーナルに投稿したりすることなのです。このように、学会は自分の研究成果を問う場、別の言い方をすれば自分がプロとして勝負をかける場、そして自分をプロと

して成長させてくれる場でもあります。

先ほども書きましたが、IT化時代、皮相的な効率至上主義が跋扈する時代をむかえて、教員の仕事もいわば指数関数的に増大しており、なかなか学会にまでエネルギーを注ぐのが困難になってきているのが実情です。学会というのは別の言い方をすると公園のような場所ではないかと思えます。そこに来れば利害関係なく話ができて、刺激が得られる、あるいは安らぎが得られると同時に自己研鑽の機会が与えられます。公園は草花に水や肥料を与えず、また整備もしないでほうっておくとますます荒廃していき、人が寄り付かなくなってしまいます。また、いつ来ても同じ草木しかなく、新しい植物、新しい遊具が見当たらないと公園を訪れる人は固定してしまい、やはりその魅力が低下してしまいます。私たち専任職をもち、日々教育研究にあたっている者に対して、大きな権威を感じられるかもしれませんが、実際には私たちも毎日が自転車操業の状態であり、また「偉い」ように見えても、実は「体だけエライ」のが実情です。どうか、これを機会に若い研究者のみなさんが、こぞって学会に正式に入会していただき、フレッシュな息吹を公園に与えてくださることを切にお願いしたいと思います。そして、みなさんの後輩の方々にもぜひこの卒論修論研究発表セミナーのことをお知らせいただき、今後もこのような会を利用してより意欲的に成果発表をされるよう、お勧めいただければ幸いです。将来にわたって公園が存続できるかどうかは、皆さんの力にかかっていると言っても過言ではありません。

最後になりましたが、参加された皆さんの今後のさらなるご発展とご活躍をお祈りしています。

第11回卒論・修論研究発表セミナー報告

副会長 藪内 智

第11回卒論・修論研究発表セミナーが2月16日(土)(9:45-17:20)、流通科学大学で開催されました。時折厳しい寒風が吹く天候にもかかわらず、参加者は100名を超え、盛会になりました。

今回の発表者は卒業論文15名、修士論文18名の、合計33名でした。どの発表もこれまで研究してこられた成果を集約した熱のこもった発表でした。それぞれの発表の後には、活発な質疑応答がなされ、参加者のみなさんやコーディネータの先生と発表者との間

で有意義な質疑応答や討議が展開されました。発表の中には厳しいコメントが寄せられたものもあったようですが、全体的に丁寧で暖かい助言が多かったように感じました。これは、他の学会活動には見られない、卒論・修論研究発表セミナーならではの光景に思えます。

卒論・修論研究発表後のイベントとして、例年通りスペシャルトークを開催しました。筑波大学から卯城祐司先生をお招きし、「英語教育学の理論と実践の統合を目指して—『英文が読めたつもり』を見つめた25年間を振り返って」というタイトルで講演をお願いしました。先生のお人柄がうかがえる楽しくまた感動的なエピソードを交えながら、教育や研究についてお話していただきました。詳細は関西大学大学院の大庭さんがまとめてくださっていますので、それをお読みください。とにかくあっという間の90分でした。

セミナー終了後に行われた懇親会には、発表者の方々、卯城先生、コーディネータの先生方、そして、事務局のメンバー、合わせて30名近くの方々が参加していただきました。今年は残念ながら発表者の方々の参加が5人程度でしたが、親しみやすい雰囲気の中、大学の垣根を越えて談笑している学生さんたち、教員と学生という間を越えて和やかに歓談もしくは議論(?)している姿、卯城先生と一緒に記念写真を撮っている姿、更なる研究のために研究会への参加を学生さんに勧めておられた先生の姿など、微笑ましい光景があらこちらで見られました。

セミナー終了後、発表者の方々からお礼のメールや後輩にも参加を勧めたいという旨のメールをいただきうれしく思います。反省すべきことは多々ありますが、来年度以降もさらに充実した行事にしていきたいと考えておりますので、みなさまの積極的な参加を何卒よろしく願いいたします。

第9回セミナー報告（奈良地区）

中井 英民（天理大学）

2月3日（日）に、今回も天理大学英語教育研究会、JALT Nara Chapter、NET Forumと合同で開催され、奈良県内外から英語教育に関わる様々な校種の教員、学生、約140人が参加しました。今年度は「“Speaking Smoothly: the making of smooth talkers”（発音、音読、発話の指導を中心として）」をテーマと

して、4つの発表と講演会が行なわれました。

発表1. では、「“Practice Makes Perfect”を目指して！ - 音読指導を中心に-」と題して、五条西中学校の神山豊彦先生から、様々なコミュニケーション活動を通じ、教科書の英文をたくさん、また楽しく音読することで、語彙や表現の習得につなげる諸活動が紹介されました。

発表2. では、「Digital Storytelling at Tomigaoka High School (SELHi)」のタイトルのもと、大阪学院大学のRex Tanimoto先生と登美ヶ丘高校の泉博先生が共同報告をされました。Digital Storytellingとは、コンピューター上でデジタル資料を用いて自らのストーリーを創作し、プレゼンテーションを行う活動です。また泉先生からは、SELHi校の活動のひとつである、近隣の小学校での「英語による童話の読み聞かせ」が紹介され、小学校と高等学校の交流という英語教育の新しい可能性が示されました。

発表3. では、「Pronunciation matters !?」と題して、Andrew Sowter先生（青翔高校ALT）と天理大学の中井が共同発表をしました。二人は、中高の現場では発音記号の指導があまりされていないことや、発音指導に対する先生方の意識が消極的であることをデータを用いて指摘し、自立的な学習者を育てるためにも発音記号の指導が重要であることを提起しました。またミニマルペアやチャンツ・ラップを使った指導例を紹介しました。

発表4. では、「脳科学が語る第2言語習得」について、天理大学の吉川敏博が発表しました。「言語は神経回路を経由して獲得される」という言語習得のメカニズムが紹介され、母語と第二言語では習得のメカニズムが異なること、繰り返し練習することにより、母語とは別の第二言語専用の神経回路が作られれば、母語のようなレベルにまで語学力を高めることができることが述べられました。

最後の講演会では、神戸市外国語大学の玉井健先生より、「シャドーイングと言語習得の接点」と題してお話をいただき、認知心理学や最先端の脳科学、言語学習理論から、シャドーイングがリスニングに及ぼすと考えられる効果と、これまでのシャドーイング指導で得られた結果の分析についてご説明いただきました。最後は、実際に英語のインタビューやニュースを使ったシンクロナイズド・リーディングとプロソディック・

シャドーイングを参加者が体験し、有効な指導例や教材選びでの注意点が示されました。「シャドーイングはあくまでも英語学習法の1つに過ぎませんが、日本語話者が持つ音のテンプレートを英語の音につくりかえる点では有効なのです。」という玉井先生の講演の締めくくりのことばに、会場から大きな拍手があがりました。

セミナーの最後には恒例のスナックパーティが催され、年齢・国籍を問わず参加者一同が打ち解け合い、長いセミナーを終えました。今回も、KELESから瀬川会長先生と岡先生(会計担当幹事)に開会から閉会までお手伝いいただきましたことに、深く感謝いたします。

第10回セミナー(和歌山地区)報告

長谷 尚弥(関西学院大学)

「日英比較から出発する英語教育の重要性」と題された、本学会和歌山地区の理事であり、和歌山大学教授である奥田隆一先生による講演であった。つい教授法に注目が集まりがちになる昨今の日本の英語教育だが、教授内容、特に日本語と英語の違いに配慮した授業内容や説明方法の重要性を強調された。具体的内容としては、音声面(母音と子音、弱形、イントネーションが意味に及ぼす影響)、外来語を中心とした語彙、5文型、文法(時制、助動詞、前置詞他)、発想の違いに起因する表現の違い、パラグラフ構成などの点について、日本語と英語の違いを十分理解した上で教授内容を精選し、適切な説明を行うことが重要であると力説された。先生のご専門である語法研究の成果もふんだんに盛り込まれた内容の濃いものであった。

今年度末で和歌山大学を転出される奥田先生にとって、和歌山発の最後のメッセージとなった。会場には和歌山大学の先生の教え子、教育行政関係の方も参加されており、和歌山における奥田先生のこれまでのご活躍、ご指導の成果の一端を目の当たりにすることが出来たのは幸いであった。

関西英語教育学会第12回研究大会

幹事 石川慎一郎

新年度開講も間近となり、会員の皆様には益々ご多忙の毎日をお過ごしのことと拝察致します。今年も

下記の要領で研究大会を開催することになりました。多数の会員のご応募をお待ちしております。

○日程:2008年5月24日(土) ※全1日

9:30 受付開始

10:00-10:30開会・総会(1)

10:40-12:30 発表

<昼食>

13:10-13:50 総会(2)

14:00-15:30 講演

15:40-17:30 発表

18:30-20:00 懇親会

○会場:神戸大学国際文化学部キャンパス

阪神「御影」駅、JR「六甲道」駅、阪急「六甲」駅より神戸市バス16系統六甲ケーブル下行き乗車「神大国際文化学部前」下車

○講演

田中 茂範 先生(慶應義塾大学)

○発表者募集

研究発表・実践報告30分(発表20分+質疑10分)ワークショップ60分、シンポジウム90分

○発表申込:学会ホームページより

[<http://keles.hp.infoseek.co.jp/>]

○発表申込期間:4月1日(火)~4月30日(水)

○発表要旨:5月初旬に学会ホームページに掲載

○発表資格:

- 1)共同発表者を含めて、発表者は全員会員である必要があります。
- 2)昨年度より継続会員の方も、新規入会の方も、発表者は全員5月10日までに2008年度分の会費納入を完了して下さい。
- 3)上記入金が確認されない場合、発表資格が取り消されることがあります。

○年会費と振込先

- 1)一般会員 5000円(全国英語教育学会あわせの場合+2000円)
- 2)学生会員 3000円(全国英語教育学会あわせの場合+2000円)
- 3)賛助会員 12000円(地区セミナーと研究大会の展示料が無料)

最寄の郵便局で振替用紙を入手いただき、下記までお振り込みください。

郵便振替先口座番号 00910-7-39666

振替先加入者名 関西英語教育学会
通信欄:「一般」or「学生」、「関西のみ」or「全国あわせて」の区別記入。

○ [重要] 紀要SELT投稿資格

本大会での発表者は学会紀要へ投稿する資格を得ることができます。

※詳細プログラムは5月初旬にホームページ掲載及び郵送する予定です。

全国英語教育学会第1回理事会報告

幹事 岡 良和

日時:2008年3月29日(土) 15:00~19:00

場所:ホテルサンルート仙台

全国英語教育学会(JASELE)2008(平成20)年度第1回理事会が、3月29日(土)の15:00から19:00にかけて、ホテルサンルート仙台において開催されました。参加者は24名で、関西英語教育学会からは、瀬川俊一会長と岡良和幹事(代理)が出席しました。

主な議事は次の通りです。①2007(平成19)年度会員名簿について、全国英語教育学会支部会員数2400名、全国会員数1290名という報告 ②2007(平成19)年度暫定決算案、2008(平成20)年度暫定予算案の承認、③全国英語教育学会紀要ARELE第19号編集経過報告。この件については、特に執筆要項の厳守を会員に徹底するよう地区学会への対応依頼がありました。④第34回東京研究大会と第35回鳥取研究大会についての準備経過報告 ⑤第36回研究大会を関西英語教育学会が担当することの確認。⑥新役員体制の構成。今夏の第2回理事会において確認することになりました。

第34回全国英語教育学会東京研究大会

○日程:2008年8月9日(土)・8月10日(日)

○会場:昭和女子大学(世田谷区太子堂)

○参加申込締切日:7月4日(金)

同封の申込書をFAX。

○発表申込締切日:5月23日(金)

大会ホームページから申し込み。

○大会予稿集原稿:6月13日(金)必着

○課題研究フォーラム(関西)

「多読を科学する:第二言語としての英語の学習における効用」

コーディネーター:門田修平氏(関西学院大学)

※詳細は同封の大会案内をご覧ください。

会員情報<2007年12月号以降の新入会者>

幹事 倉本充子

佐野 光宜、山本 誠子、山本 勝巳、雪丸 尚美

加藤 賢至、井本 晃子、桃井 活果、西田 理恵子

安川 佳子、藪越 知子、片岡 晴美、北川 郁子

(以上、敬称略・入会順)

会費納入のお願い

幹事 岡 良和

「会費についての細則」第3条により、2008年度の会費は5月24日開催の研究大会までにご納入いただくこととなります。研究大会当日、受付にてご納入いただくことも可能ですが、混雑緩和のため、同封の郵便振替用紙にて最寄の郵便局でご入金くださいますようお願いいたします。納入の確認には郵便局でのご入金後3~4日を要します。また、研究大会でご発表予定の方は、5月10日までにお振込を願います。また、2009年度の全国英語教育学会での研究発表や紀要投稿をご希望の方は、関西の年会費とあわせて全国の年会費をご納入いただく必要があります。

年会費は以下の通りです。

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 一般会員(関西のみ) | 5,000円 |
| 2. 一般会員(関西+全国) | 7,000円 |
| 3. 学生会員(関西のみ) | 3,000円 |
| 4. 学生会員(関西+全国) | 5,000円 |
| 5. 賛助会員 | 12,000円 |

会費未納による自動退会が2006年度末には約70名、2007年度末には約45名ありました。本会は会員の皆様の会費によって支えられていることを、どうかご理解いただき、会員のご継続を宜しくお願いいたします。

なお、会費納入に関するお問い合わせは、会計岡 良和[oka@uhe.ac.jp]までお願い致します。

刊行物のご案内

幹事 岡 良和

関西英語教育学会は、会員の研究論文や実践報告の発表の場として『英語教育研究』を毎年刊行し、英語教育研究の発展に寄与しています。この紀要

には、本学会が講演を依頼した著名な研究者による論文も収められ、高い評価を得ています。また、本学会は学部生や大学院生が卒業論文・修士論文を口頭発表し、互いに研鑽する場となる「卒論・修論研究発表セミナー」を毎年開催し、将来の教員や研究者の育成にも努めてきました。この発表は『卒論・修論研究発表セミナー発表論文集』として公刊されています。この機会にぜひ、紀要DVDやバックナンバーをお求めください。

紀要DVD販売のお知らせ

待望の紀要DVDが刊行

英語教育研究の全貌をPC画面に！

会員特別価格 3,000円

『英語教育研究』過去28年分、『卒論・修論研究発表セミナー発表論文集』過去9年分(いずれも2005年度刊行分まで)をすべて電子化。鮮明な画像で論文を通読できるほか、OCRによるテキスト情報を埋め込みましたので、論文内の単語などでの検索も可能になりました(但し、OCRの認識率は100%ではなく、完全な検索はできません)。

KELESの歩みの記録として、また、英語教育研究の必携情報レポジトリとして、ぜひお手元におそろえください。なお、これ以降に発行された紀要につきましてもご用立てできます。購入に関するお問合せは、会計岡 良和[oka@uhe.ac.jp]までお願いいたします。

紀要ならびに卒論・修論研究発表論文集バックナンバー購入のご案内

紀要DVD発行以降の『英語教育研究』30号(2007年3月)、31号(2008年3月)はそれぞれ3000円、『卒論・修論研究発表セミナー発表論文集』第10回(2007年2月)、第11回(2008年2月、近刊)はそれぞれ1000円にて送料込みでご購入いただけます。また、これ以外の号につきましても残部があるものもあります。お問い合わせは、会計岡良和[oka@uhe.ac.jp]までお願いいたします。

紀要関連情報(刊行報告、次号投稿募集案内)

紀要編集委員長 石川慎一郎
紀要SELT第31号が3月末に刊行されました。ご投

稿の皆様、査読をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。おかげさまで今回も力作論文が多数そろい、KELESの研究水準の高さを示す刊行となりました。次号、紀要第32号は2008年度末の刊行です。32号への投稿には、5月のKELES大会、または8月の全国英語教育学会での発表が原則として義務付けられています。

投稿をお考えの先生方は、まずは、5月のKELES大会(神戸大学)での発表にお申し込みくださいますようよろしくお願い申し上げます。

編集委員会では、2006年度より、紀要刊行の体制を一新し、30号、31号と2つの号を刊行させていただきました。当委員会の任期は5月の大会までとなりますが、この間の各位のご支援に改めてあつく御礼を申し上げます。ありがとうございました。

最新情報が学会HPにて随時更新されますので、頻りに閲覧いただきますようお願いいたします。

<http://keles.hp.infoseek.co.jp/>

関西英語教育学会 第12回研究大会

日程: 2008年5月24日(土) ★全1日
会場: 神戸大学国際文化学部キャンパス
※最新情報を学会HPでご確認下さい。
[<http://keles.hp.infoseek.co.jp/>]

第34回全国英語教育学会 東京研究大会

◆日程: 2008年8月9日(土)・8月10日(日)
◆会場: 昭和女子大学(世田谷区太子堂)
※発表申込締切日: 5月23日(金)
[www.jasele.org/]から申し込み

2008年度研究大会発表資格取得のための会費納入期限

所属学会		全国英語教育学会 (JASELE)		
		関西英語教育学会 (KELES)		
発表形態		全発表	単独・共同発表代表	共同発表代表以外
会費納入期限		2008年5月初旬	2008年2月末日 ^{※1}	2008年6月初旬
大会日程		2008年5月最終週末	2008年8月第1週頃	
会費	一般	5000円	7000円 ^{※2} (含KELES会費)	
	学生	3000円	5000円 ^{※2} (含KELES会費)	

※1: JASELEの発表資格は、前年度(2007年度)納入済者に限ります。

※2: JASELEの入会資格として地区学会(KELES)会員である必要があります。2008年4月1日現在

KELES年間活動計画

月	日	イベント名	会場	講師	内容
5	26(土),27(日)	研究大会	摂南大学	東 照二氏	社会言語学
7	7(土)	セミナー06	大阪: 関西大学	水本 篤氏	Excel 統計
10	20(土)	セミナー07	神戸: 三宮研修センター	横田玲子氏	小学校英語活動
12	16(日)	セミナー08	京都: 京都外国語大学	石川保茂氏	Internet教育活用
H20.	3(日)	セミナー09	奈良: 天理大学	玉井 健氏	シャドーイング
2	16(土)	第11回卒修セミナー	流通科学大学	卯城祐司氏	リーディング究
3	15(土)	セミナー10	和歌山: 市民会館	奥田隆一氏	日英比較英語教育
5	24(土)	研究大会	神戸大学	田中茂範氏	教育英文法
8	9(土), 10(日)	全国英語教育学会	昭和女子大学		